

プレスリリース

2023年3月3日
国境なき医師団 (MSF)

ウクライナ：ザポリージャの住宅へミサイル攻撃——MSF は心のケアや物資提供に当たる

現地時間 3 月 2 日深夜、ウクライナ南東部ザポリージャ州ザポリージャ市にある 5 階建ての住宅にロシアのミサイルが直撃し、死傷者が出ている。国境なき医師団 (MSF) の緊急チームは地元当局と協力して現場に入り、被害にあった人びとに心理的応急処置 (サイコロジカル・ファーストエイド： PFA) や必要な救援物資を提供。市民の生命を無視した攻撃を非難する。

住宅は真っ二つに

ミサイルが直撃したのは 70 戸のアパートメントで、約 300 人が住んでいた。死傷者の総数はまだ確認されていないが、地元検察庁によると、4 人が死亡、8 人が負傷し、5 人が行方不明となっている。ミサイルは建物を真っ二つにし、電気や水道の供給が停止。爆風による破片や衝撃波で、近隣の住宅にも被害が出た。

ミサイル攻撃の脅威から市内には一晩中空襲警報が発令され、MSF のチームは 2 度にわたって防空壕への避難を余儀なくされた。午前 1 時半頃には、MSF の事務所から 2 キロメートルほどの、人口が密集する住宅地で爆発が発生し、大きな爆発音が 2 回聞こえた。

人びとの心にも影響

MSF 移動診療の医師、ゲンナディ・オーマテンコは、「突発的な血圧の急上昇や、ストレスを訴える人たちが MSF の移動診療にきました。親族ががれきの下敷きになっていると知って、大勢の人が現場に集まっていました。今は、がれきを解体している救助隊からの知らせを待つしかないのです」と話す。

MSF は救援物資や毛布、マットレスなどを被災者に配布し、市議会とウクライナ赤十字社に衛生用品キットと毛布をそれぞれ 100 個ずつ寄贈した。また、ザポリージャの第 3 病院には、負傷者が一斉に運ばれてくる事態に対応するための医療物資を提供。救助隊や医療スタッフは引き続き、住民を避難させるため病院や避難所へと誘導している。

市民の生命を無視した攻撃

MSF のウクライナ活動責任者であるフランソワ・デルフォッセは、「MSF が、市民の生命をあからさまに

無視した攻撃の痕跡を目撃し、対応したのは、2023年初頭以来2度目です。この戦争は、人びとに受け入れがたいほどの大きな犠牲を与え続けています」と憤る。

1月14日にもロシアのミサイルがドニプロ中心部の住宅に命中し、子ども6人を含む少なくとも46人が死亡、80人以上が負傷している。

MSFは2022年3月からザポリージャで活動し、最前線近くの病院に医療物資を提供している。また、移動診療を運営し、避難民や住民の診療や心のケアを行っている。

以上

本件に関するお問い合わせ先：

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本 広報担当：舘 俊平、山田瑞穂

携帯：080-2344-0684

E-mail: press@tokyo.msf.org <https://www.msf.or.jp>

 メディア向けツイッターアカウント：@MSFJ_Press